

## 平成 29 年(2017) 患者調査の概況

### 目 次

調査の概要	1 頁
結果の概要	3
1 推計患者数	
(1) 施設の種類・性・年齢階級別	3
(2) 傷病分類別	5
(3) 在宅医療の状況	6
(4) 入院(重症度等)の状況	7
2 受療率	
(1) 性・年齢階級別	8
(2) 傷病分類別	9
(3) 都道府県別	10
3 退院患者の平均在院日数等	
(1) 施設の種類・年齢階級別	11
(2) 傷病分類別	12
(3) 推計退院患者数の構成割合	13
4 入院前の場所・退院後の行き先	14
5 主な傷病の総患者数	15
統計表	16
受療率の算出に用いた人口	33



#### (4) 受療率

推計患者数を人口 10 万対であらわした数である。

受療率（人口 10 万対）＝推計患者数／推計人口×100,000

#### (5) 総患者数（傷病別推計）

調査日現在において、継続的に医療を受けている者（調査日には医療施設で受療していない者を含む。）の数を次の算式により推計したものである。

総患者数＝入院患者数＋初診外来患者数＋（再来外来患者数×平均診療間隔×調整係数（6/7））

#### (6) 病床の種類

##### 精神病床

精神疾患を有する者を入院させるための病床をいう。

##### 感染症病床

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(平成10年法律第114号)に規定する一類感染症、二類感染症（結核を除く。）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症並びに新感染症の患者を入院させるための病床をいう。

##### 結核病床

結核の患者を入院させるための病床をいう。

##### 療養病床

病院の病床（精神病床、感染症病床、結核病床を除く。）又は一般診療所の病床のうち主として長期にわたり療養を必要とする患者を入院させるための病床をいう。

##### 一般病床

精神病床、感染症病床、結核病床、療養病床以外の病床をいう。

### 8 利用上の注意

(1) 本調査における傷病は、世界保健機関（WHO）の「疾病及び関連保健問題の国際統計分類」（ICD）に基づいて定められた「疾病、傷害及び死因の統計分類（ICD-10（2013年版）準拠）」を適用して分類している。

#### (2) 表章記号の規約

計数のない場合	—
計数不明又は計数を表章する事が不適当な場合	…
統計項目のありえない場合	・
推計値、比率等でまらめた結果が表章すべき最下位の桁の1に達しない場合	0又は0.0

(3) 掲載の数値は、単位未満を四捨五入しているため、内訳の合計が総数に合わない場合もある。

(4) 受療率の算出に用いた人口は、「人口推計（平成 29 年 10 月 1 日現在）」（総務省統計局）の総人口である。（33 頁「受療率の算出に用いた人口」）

(5) 傷病分類別の数値については、主傷病（※4）について表章したものである。

※4「主傷病」 入院患者 … 調査日現在、入院の理由となっている傷病  
外来患者 … 調査日現在、主として治療又は検査をしている傷病  
退院患者 … 退院時に入院の理由となっていた傷病

(6) 平成 23 年は、東日本大震災の影響により、宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県は調査を実施していないため、これらの地域を除いた数値となっている。

※ 患者調査は、統計法に基づく基幹統計「患者統計」を作成するための統計調査である。

# 結果の概要

## 1 推計患者数

調査日に全国の医療施設で受療した推計患者数は、「入院」1,312.6千人、「外来」7,191.0千人である。

### (1) 施設の種類の性・年齢階級別

「入院」1,312.6千人について、施設の種類の別みると「病院」1,272.6千人、「一般診療所」39.9千人、性別にみると「男」599.4千人、「女」713.2千人、年齢階級別にみると「65歳以上」960.9千人、「75歳以上」698.8千人となっている。

「外来」7,191.0千人について、施設の種類の別みると「病院」1,630.0千人、「一般診療所」4,213.3千人、「歯科診療所」1,347.7千人、性別にみると「男」3,053.7千人、「女」4,137.3千人、年齢階級別にみると「65歳以上」3,644.8千人、「75歳以上」2,080.3千人となっている。（表1、統計表1）

表1 年齢階級別にみた施設の種類の推計患者数

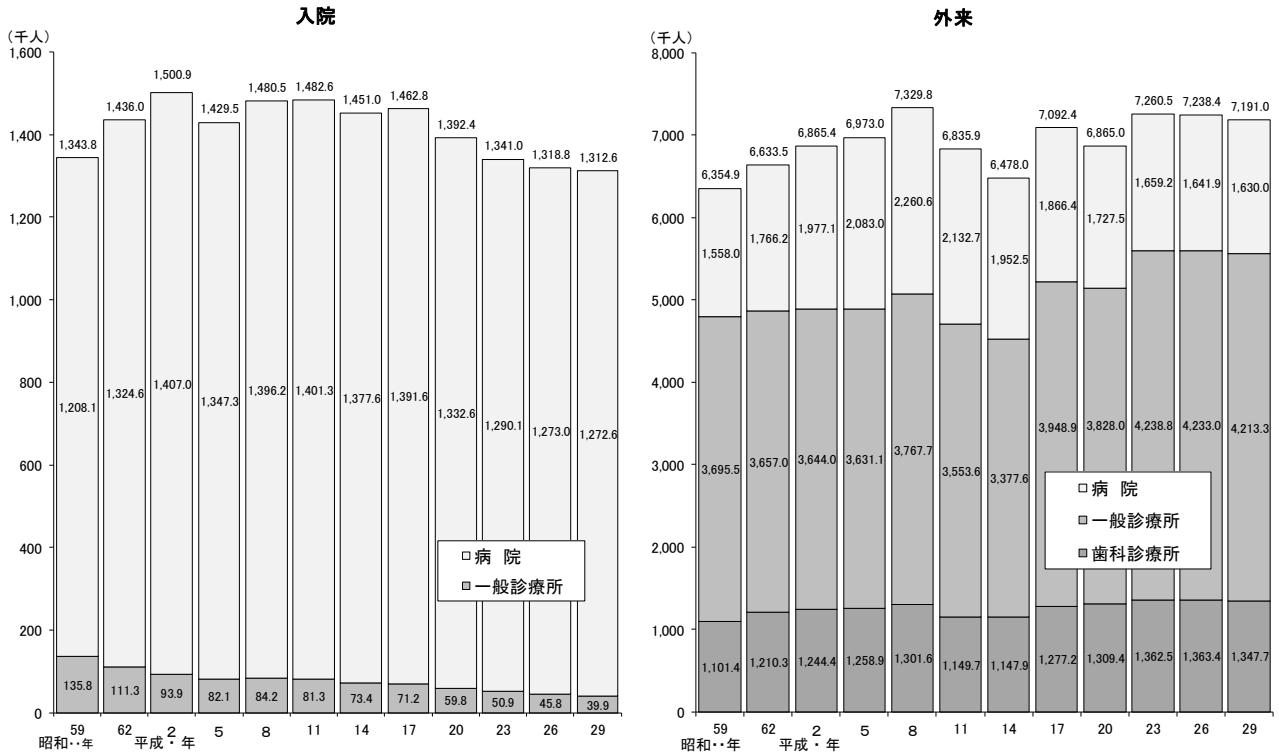
(単位：千人) 平成29年10月

性 年齢階級	入 院			外 来			
	総 数	病 院	一 般 診 療 所	総 数	病 院	一 般 診 療 所	歯 科 診 療 所
総 数	1 312.6	1 272.6	39.9	7 191.0	1 630.0	4 213.3	1 347.7
男	599.4	588.0	11.4	3 053.7	761.4	1 733.4	558.9
女	713.2	684.7	28.5	4 137.3	868.7	2 479.9	788.7
0 歳	11.2	10.6	0.6	70.1	14.0	56.0	0.1
1 ~ 4	6.7	6.7	0.0	257.2	32.3	210.1	14.7
5 ~ 9	4.5	4.5	0.0	229.8	25.5	152.5	51.8
10 ~ 14	5.1	5.0	0.1	150.2	19.8	103.8	26.6
15 ~ 19	6.8	6.7	0.1	115.3	19.1	75.3	20.9
20 ~ 24	9.8	9.0	0.8	131.3	24.3	76.3	30.8
25 ~ 29	14.8	12.7	2.0	173.1	32.8	98.4	41.9
30 ~ 34	20.7	18.3	2.4	220.7	43.3	129.2	48.2
35 ~ 39	23.3	21.7	1.6	252.5	51.9	144.4	56.2
40 ~ 44	29.4	28.5	0.9	317.4	66.3	174.1	77.0
45 ~ 49	37.7	36.9	0.7	357.7	79.7	189.1	88.9
50 ~ 54	45.0	44.4	0.6	365.5	85.7	195.9	83.9
55 ~ 59	57.5	56.5	1.0	397.3	96.6	211.0	89.7
60 ~ 64	77.8	76.6	1.2	490.0	124.2	262.7	103.1
65 ~ 69	129.5	127.2	2.3	776.2	197.6	422.7	155.8
70 ~ 74	132.7	130.3	2.4	788.4	195.7	444.6	148.2
75 ~ 79	165.0	161.1	3.9	816.8	205.9	476.2	134.8
80 ~ 84	192.3	186.8	5.5	664.3	166.6	402.8	95.0
85 ~ 89	180.9	174.5	6.4	394.2	98.8	245.3	50.1
90歳以上	160.6	153.4	7.2	204.9	48.5	131.2	25.2
不 詳	1.4	1.2	0.2	18.1	1.4	11.8	4.8
(再 掲)							
65歳以上	960.9	933.3	27.6	3 644.8	913.1	2 122.7	609.0
75歳以上	698.8	675.8	22.9	2 080.3	519.8	1 255.3	305.1

推計患者数の年次推移をみると、入院では平成 20 年から減少しており、外来では平成 17 年からほぼ横ばいとなっている（図 1、統計表 1）。

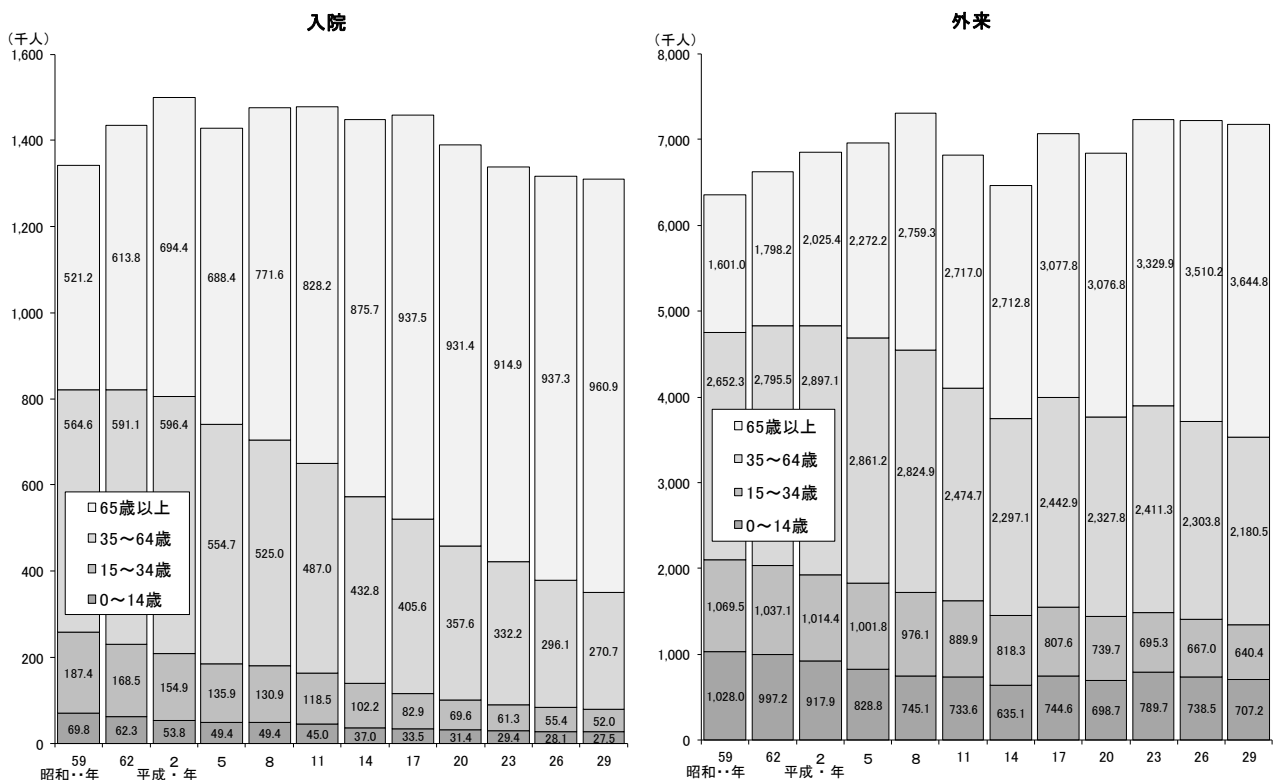
年齢階級別にみると、入院では「0～14 歳」「15～34 歳」「35～64 歳」は減少傾向、「65 歳以上」は増加傾向となっており、外来では「65 歳以上」は増加傾向となっている（図 2、統計表 1）。

図 1 施設の種類の別みた推計患者数の年次推移



注：平成 23 年は、宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。

図 2 年齢階級別にみた推計患者数の年次推移



注：平成 23 年は、宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。

## (2) 傷病分類別

入院患者を傷病分類別にみると、多い順に「V 精神及び行動の障害」252.0千人、「IX 循環器系の疾患」228.6千人、「II 新生物<腫瘍>」142.2千人となっている。

外来患者では、多い順に「XI 消化器系の疾患」1,293.2千人、「IX 循環器系の疾患」888.9千人、「XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患」877.2千人となっている。(表2、統計表2、3)

表2 傷病分類別にみた施設の種類の推計患者数

(単位：千人)

平成29年10月

傷病分類	入院			外来			
	総数	病院	一般診療所	総数	病院	一般診療所	歯科診療所
総数	1 312.6	1 272.6	39.9	7 191.0	1 630.0	4 213.3	1 347.7
I 感染症及び寄生虫症	19.8	19.5	0.3	169.8	35.9	133.9	-
結核 (再掲)	2.8	2.8	0.0	1.5	1.3	0.2	-
ウイルス性肝炎 (再掲)	0.9	0.8	0.1	18.0	10.6	7.4	-
II 新生物<腫瘍>	142.2	140.6	1.5	249.5	200.2	49.2	-
悪性新生物<腫瘍> (再掲)	126.1	124.9	1.3	183.6	157.1	26.5	-
胃の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	12.5	12.3	0.2	19.9	15.8	4.1	-
結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	18.7	18.4	0.3	29.7	24.6	5.1	-
肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	5.9	5.9	0.0	5.5	4.5	1.0	-
気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	17.8	17.6	0.2	17.1	15.2	1.9	-
乳房の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	5.7	5.6	0.1	27.7	24.6	3.0	-
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5.9	5.7	0.1	21.1	10.8	10.3	-
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	33.0	31.6	1.4	442.9	120.8	322.1	-
糖尿病 (再掲)	18.9	18.0	0.9	224.0	75.9	148.1	-
脂質異常症 (再掲)	0.2	0.2	0.0	148.0	21.0	127.0	-
V 精神及び行動の障害	252.0	250.4	1.6	260.9	108.1	152.8	-
血管性及び詳細不明の認知症 (再掲)	27.8	27.4	0.4	11.7	3.5	8.1	-
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (再掲)	153.5	153.3	0.2	62.7	39.9	22.8	-
気分[感情]障害(躁うつ病を含む) (再掲)	29.9	29.2	0.7	89.6	27.2	62.4	-
VI 神経系の疾患	126.2	124.3	1.9	164.9	67.6	97.3	-
アルツハイマー病 (再掲)	49.3	48.5	0.8	46.7	15.9	30.7	-
VII 眼及び付属器の疾患	11.7	10.6	1.1	358.5	61.5	297.0	-
VIII 耳及び乳様突起の疾患	2.6	2.5	0.1	99.2	14.4	84.8	-
IX 循環器系の疾患	228.6	222.4	6.3	888.9	221.3	667.6	-
高血圧性疾患 (再掲)	5.6	4.5	1.1	646.9	99.2	547.7	-
心疾患(高血圧性のものを除く) (再掲)	64.0	62.4	1.5	134.2	67.5	66.7	-
脳血管疾患 (再掲)	146.0	142.5	3.5	85.9	41.2	44.7	-
X 呼吸器系の疾患	95.9	93.3	2.6	629.9	81.1	548.7	-
肺炎 (再掲)	35.6	34.4	1.3	7.8	3.5	4.2	-
慢性閉塞性肺疾患 (再掲)	8.2	7.9	0.3	17.6	6.9	10.6	-
喘息 (再掲)	3.5	3.3	0.2	121.1	20.2	100.9	-
XI 消化器系の疾患	66.1	64.2	1.9	1 293.2	130.8	151.1	1 011.3
う蝕 (再掲)	0.0	0.0	-	277.1	3.4	0.9	272.9
歯肉炎及び歯周疾患 (再掲)	0.1	0.1	-	469.1	12.5	2.3	454.4
肝疾患 (再掲)	7.4	7.1	0.3	26.9	12.8	14.1	-
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	11.7	11.3	0.4	303.5	44.7	258.8	-
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	71.3	67.3	4.0	877.2	183.4	693.8	-
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	50.3	47.5	2.8	321.5	115.9	205.6	-
慢性腎臓病 (再掲)	24.0	22.0	1.9	143.3	51.2	92.1	-
XV 妊娠、分娩及び産じょく	18.3	13.0	5.2	15.1	7.3	7.8	-
XVI 周産期に発生した病態	7.0	6.7	0.3	3.0	2.6	0.5	-
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	5.7	5.7	0.0	14.1	10.3	3.8	-
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	14.4	13.7	0.7	78.9	37.0	41.9	-
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	137.7	131.0	6.7	299.0	92.0	203.2	3.8
骨折 (再掲)	97.4	92.0	5.5	98.6	39.0	59.6	-
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	12.1	11.2	1.0	700.1	84.4	283.1	332.6

### (3) 在宅医療の状況

調査日に在宅医療を受けた推計外来患者数は180.1千人であり、これを施設の種類別にみると、「病院」20.3千人、「一般診療所」105.2千人、「歯科診療所」54.6千人となっている。

在宅医療の種類別にみると、総数では「往診」44.3千人、「訪問診療」116.3千人、「医師・歯科医師以外の訪問」19.6千人となっている。(表3)

年次推移をみると、在宅医療を受けた推計外来患者数は平成17年までほぼ横ばいであったが、平成20年からは増加している(図3)。

表3 年齢階級別にみた在宅医療を受けた推計外来患者数

(単位：千人) 平成29年10月

年齢階級	推計外来患者数総数	(総数)				(病院)				(一般診療所)				(歯科診療所)		
		在宅医療	往診	訪問診療	医師・歯科医師以外の訪問	在宅医療	往診	訪問診療	医師・歯科医師以外の訪問	在宅医療	往診	訪問診療	医師以外の訪問	在宅医療	訪問診療	歯科医師以外の訪問
総数	7 191.0	180.1	44.3	116.3	19.6	20.3	7.6	9.8	3.0	105.2	36.7	64.7	3.7	54.6	41.7	12.9
0～14歳	707.2	0.3	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	-
15～34	640.4	1.8	1.1	0.5	0.3	0.9	0.6	0.2	0.2	0.7	0.4	0.2	0.1	0.1	0.1	-
35～64	2 180.5	11.3	3.9	5.5	1.9	4.0	2.1	0.6	1.3	5.0	1.8	2.7	0.5	2.3	2.3	0.1
65歳以上(再掲)	3 644.8	166.0	39.1	109.6	17.3	15.2	4.7	9.0	1.5	99.0	34.4	61.6	3.0	51.8	39.0	12.8
75歳以上	2 080.3	148.9	34.5	98.3	16.1	13.0	3.9	8.2	1.0	88.0	30.6	54.7	2.6	47.9	35.4	12.5

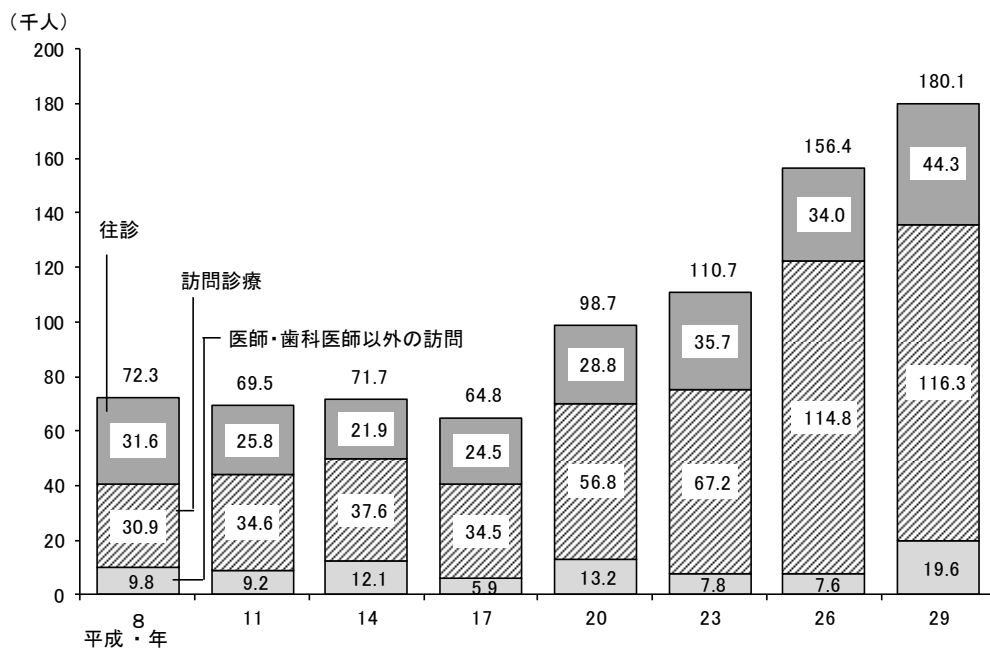
注：1) 総数には、年齢不詳を含む。

2) 「往診」とは、患者(介護老人保健施設等を含む。以下同じ。)の求めに応じて患者に赴いて診療するものをいう。

3) 「訪問診療」とは、医科においては、居宅において療養を行っている患者であって、通院が困難な者に対して、その同意を得て計画的な医学管理の下に、定期的に医師が訪問して診療を行うものをいい、歯科においては、歯科医師が患者に赴いて診療を行うものをいう。

4) 「医師・歯科医師以外の訪問」、「医師以外の訪問」及び「歯科医師以外の訪問」とは、居宅において療養を行っている患者であって、通院が困難な者に対して、その同意を得て計画的な医学管理の下に、定期的に当該職種以外の者が訪問して実施されるものをいう。

図3 在宅医療を受けた推計外来患者数の年次推移

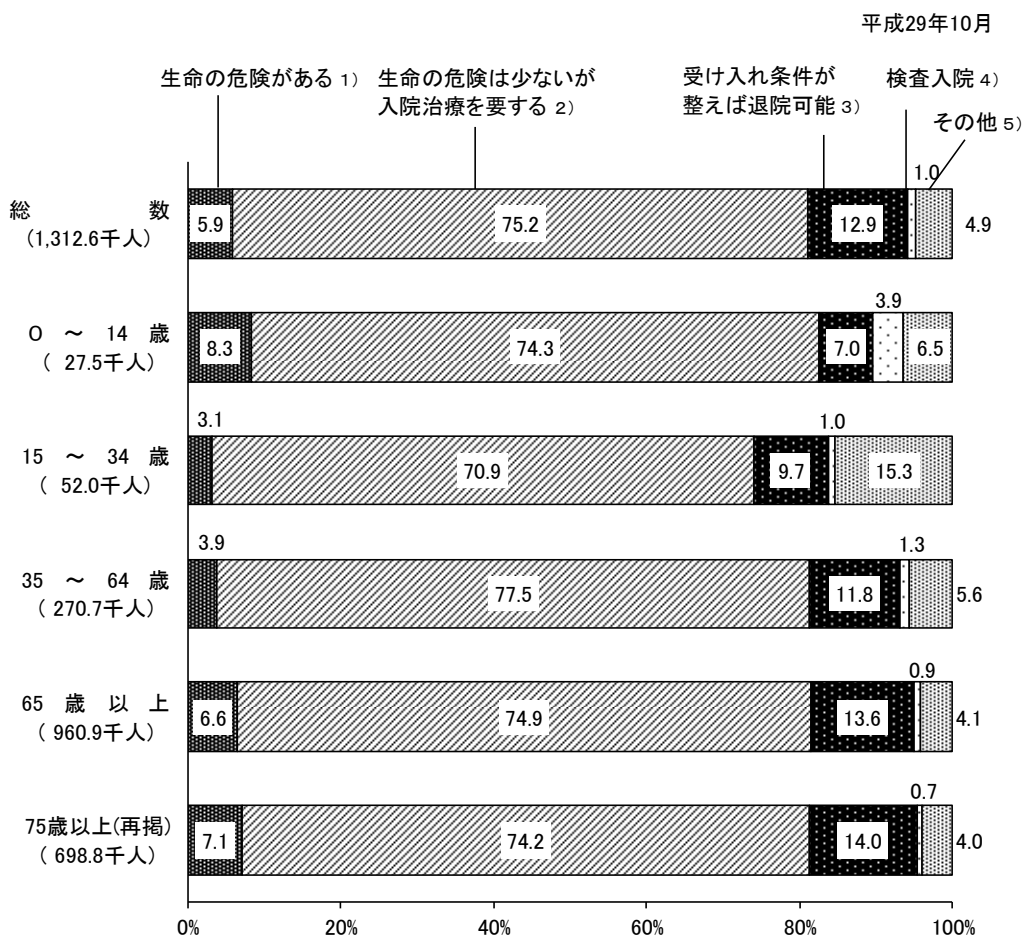


注：平成23年は、宮城県の石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。

#### (4) 入院（重症度等）の状況

入院（重症度等）の状況を見ると、「生命の危険がある」5.9%、「生命の危険は少ないが入院治療を要する」75.2%、「受け入れ条件が整えば退院可能」12.9%、「検査入院」1.0%となっている。「受け入れ条件が整えば退院可能」は年齢階級が上がるに従い高くなっている。（図4）

図4 年齢階級別にみた入院（重症度等）の状況別推計入院患者数の構成割合



- 注：1) 「生命の危険がある」とは、生命の危険がある重篤な患者をいう。  
 2) 「生命の危険は少ないが入院治療を要する」には、退院が決定している患者を含む。  
 3) 「受け入れ条件が整えば退院可能」とは、退院は決まっていないが退院可能な状態にある患者をいう。  
 4) 「検査入院」とは、検査のために入院した患者をいい、健康な者に対する一般的検査のための入院患者を含む。  
 5) 「その他」とは、上記1)～4)以外の入院患者をいう。  
 6) ( ) 内は、推計入院患者数である。



## 2 受療率

全国の受療率（人口10万対）は、「入院」1,036、「外来」5,675である。

### (1) 性・年齢階級別

性別にみると、入院では「男」972、「女」1,096、外来では「男」4,953、「女」6,360となっており、年齢階級別にみると、入院では「65歳以上」2,734、「75歳以上」3,997、外来では「65歳以上」10,369、「75歳以上」11,899となっている（表4、統計表4）。

表4 性・年齢階級別に見た受療率（人口10万対）

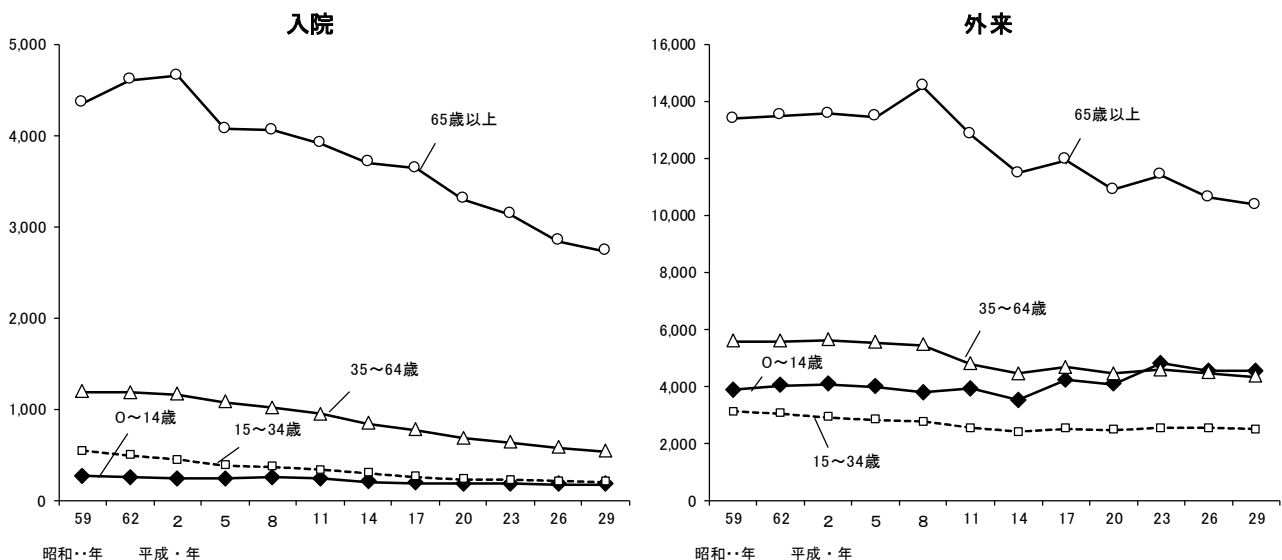
年齢階級	入院			外来		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	1 036	972	1 096	5 675	4 953	6 360
0歳	1 167	1 208	1 124	7 276	7 439	7 105
1～4	169	191	146	6 517	6 670	6 354
5～9	86	94	77	4 377	4 495	4 253
10～14	94	100	86	2 764	2 899	2 623
15～19	113	116	110	1 923	1 734	2 123
20～24	158	134	182	2 108	1 599	2 648
25～29	235	159	314	2 751	1 882	3 663
30～34	291	199	385	3 104	2 104	4 138
35～39	296	248	346	3 203	2 260	4 173
40～44	311	327	296	3 362	2 668	4 075
45～49	398	442	354	3 782	3 072	4 507
50～54	552	628	475	4 481	3 802	5 167
55～59	758	888	628	5 233	4 464	5 998
60～64	997	1 188	811	6 279	5 710	6 832
65～69	1 305	1 560	1 067	7 824	7 297	8 317
70～74	1 712	2 002	1 457	10 174	9 661	10 626
75～79	2 448	2 715	2 233	12 123	11 764	12 410
80～84	3 633	3 818	3 505	12 551	12 745	12 414
85～89	5 326	5 409	5 285	11 608	12 075	11 368
90歳以上	7 815	7 433	7 936	9 968	10 339	9 850
(再掲)						
65歳以上	2 734	2 699	2 760	10 369	9 977	10 670
75歳以上	3 997	3 868	4 080	11 899	12 023	11 820

平成29年10月

注：総数には、年齢不詳を含む。

年齢階級別にみると、入院、外来ともに「65歳以上」が最も高くなっているが、年次推移では低下傾向となっている（図5、統計表4）。

図5 年齢階級別に見た受療率（人口10万対）の年次推移



注：1）平成23年は、宮城県、石巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。  
2）数値は、統計表4参照。

(2) 傷病分類別

傷病分類別にみると、入院では、高い順に「V 精神及び行動の障害」199、「IX 循環器系の疾患」180、「II 新生物<腫瘍>」112となっている。外来では、「XI 消化器系の疾患」1,021、「IX 循環器系の疾患」702、「XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患」692となっている。(表5、統計表5)

表5 傷病分類別にみた受療率(人口10万対)

平成29年10月

傷 病 分 類	入 院			外 来		
	総 数	男	女	総 数	男	女
総 数	1 036	972	1 096	5 675	4 953	6 360
I 感染症及び寄生虫症	16	16	16	134	126	141
結核 (再掲)	2	3	2	1	1	1
ウイルス性肝炎 (再掲)	1	1	1	14	14	14
II 新生物<腫瘍>	112	130	95	197	189	204
悪性新生物<腫瘍> (再掲)	100	119	81	145	158	132
胃の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	10	14	6	16	22	9
結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	15	17	13	23	28	19
肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	5	7	3	4	6	3
気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	14	20	9	13	17	10
乳房の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	4	0	9	22	1	42
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5	4	5	17	9	24
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	26	23	29	350	309	388
糖尿病 (再掲)	15	15	15	177	203	152
脂質異常症 (再掲)	0	0	0	117	70	161
V 精神及び行動の障害	199	197	201	206	194	217
血管性及び詳細不明の認知症 (再掲)	22	17	26	9	6	12
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (再掲)	121	121	121	49	53	46
気分[感情]障害(躁うつ病を含む) (再掲)	24	18	29	71	60	81
VI 神経系の疾患	100	86	113	130	108	151
アルツハイマー病 (再掲)	39	26	51	37	19	54
VII 眼及び付属器の疾患	9	8	10	283	217	345
VIII 耳及び乳様突起の疾患	2	2	2	78	66	90
IX 循環器系の疾患	180	169	192	702	644	756
高血圧性疾患 (再掲)	4	3	6	511	439	578
心疾患(高血圧性のものを除く) (再掲)	50	48	53	106	117	95
脳血管疾患 (再掲)	115	106	124	68	71	65
X 呼吸器系の疾患	76	83	69	497	479	514
肺炎 (再掲)	28	30	27	6	7	5
慢性閉塞性肺疾患 (再掲)	6	8	5	14	19	9
喘息 (再掲)	3	2	3	96	90	101
X I 消化器系の疾患	52	57	47	1 021	890	1 144
う蝕 (再掲)	0	0	0	219	194	242
歯肉炎及び歯周疾患 (再掲)	0	0	0	370	308	429
肝疾患 (再掲)	6	6	5	21	23	20
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	9	8	10	240	215	263
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	56	43	69	692	522	853
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	40	39	41	254	242	265
慢性腎臓病 (再掲)	19	21	17	113	150	78
X V 妊娠、分娩及び産じょく	14	.	28	12	.	23
X VI 周産期に発生した病態	6	6	5	2	3	2
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	4	5	4	11	11	11
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	11	9	14	62	52	72
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	109	82	134	236	233	238
骨折 (再掲)	77	45	108	78	65	90
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	10	6	12	553	443	656

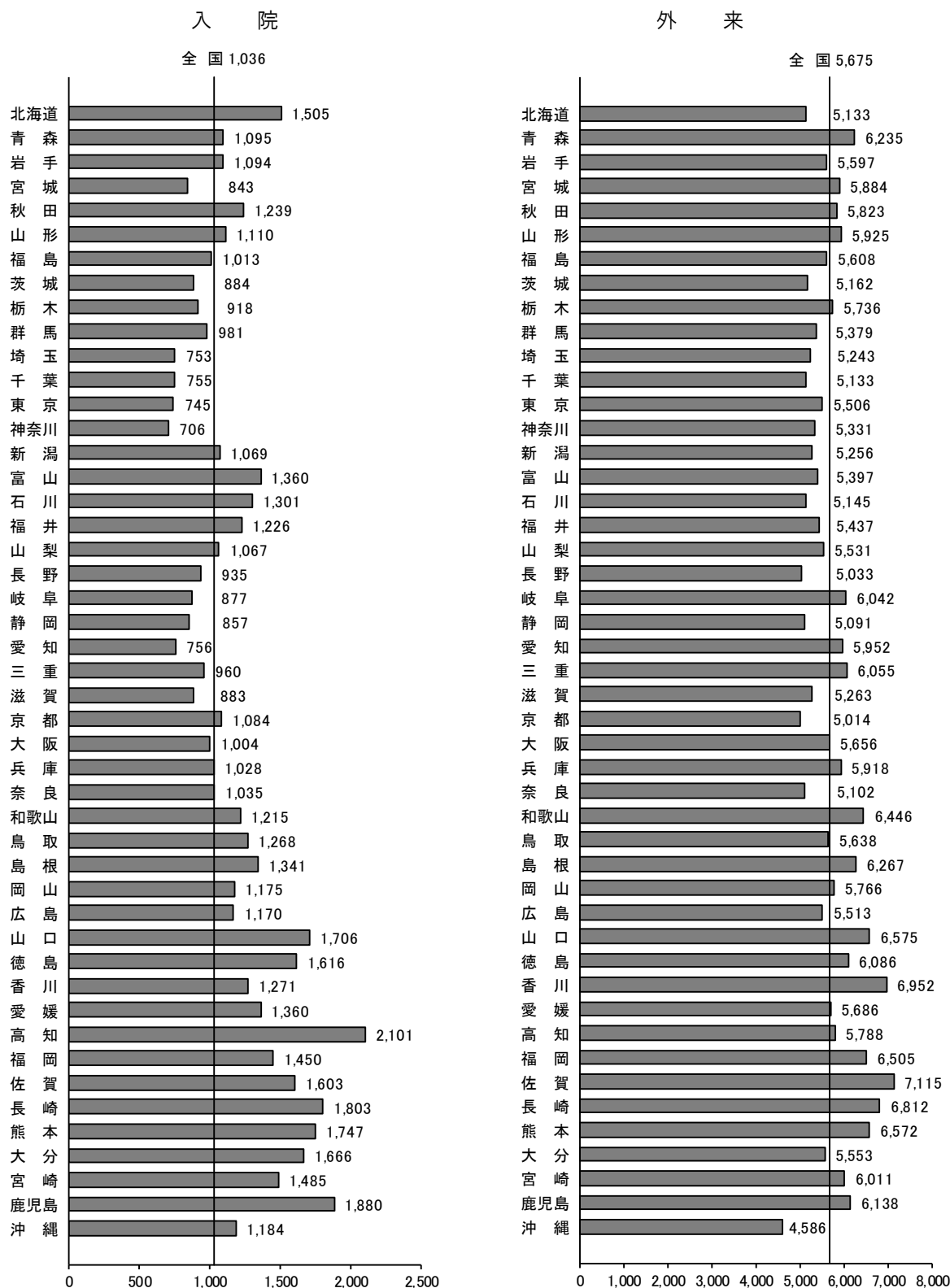
### (3) 都道府県別

都道府県(患者住所地)別にみると、入院では、「高知」が2,101と最も高く、次いで「鹿児島」1,880、「長崎」1,803となっている。また、「神奈川」が706と最も低く、次いで「東京」745、「埼玉」753となっている。

外来では、「佐賀」が7,115と最も高く、次いで「香川」6,952、「長崎」6,812となっている。また、「沖縄」が4,586と最も低く、次いで「京都」5,014、「長野」5,033となっている。(図6)

図6 都道府県(患者住所地)別にみた受療率(人口10万対)

平成29年10月



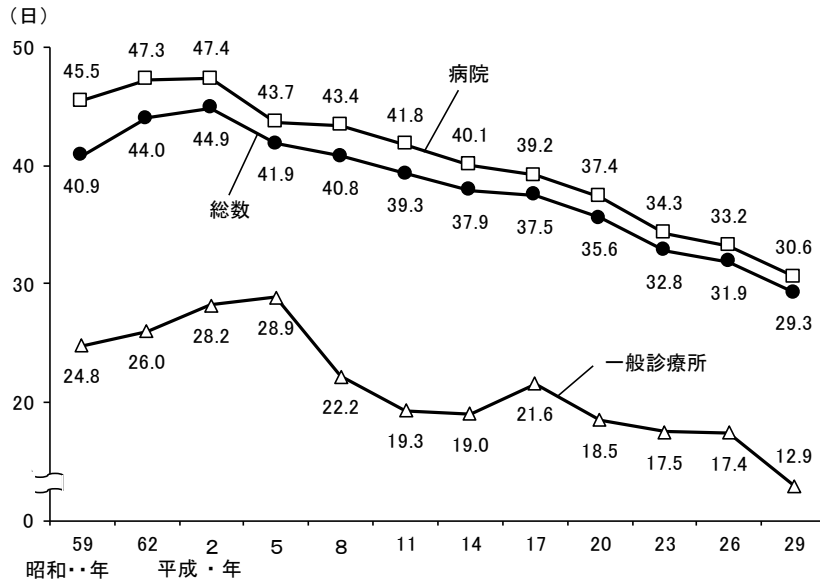
### 3 退院患者の平均在院日数等

#### (1) 施設の種類の年齢階級別

平成29年9月中の全国の退院患者について、在院日数の平均である平均在院日数を施設の種別にみると、「病院」30.6日、「一般診療所」12.9日となっており、病院、診療所ともに短くなる傾向となっている（図7、統計表6）。

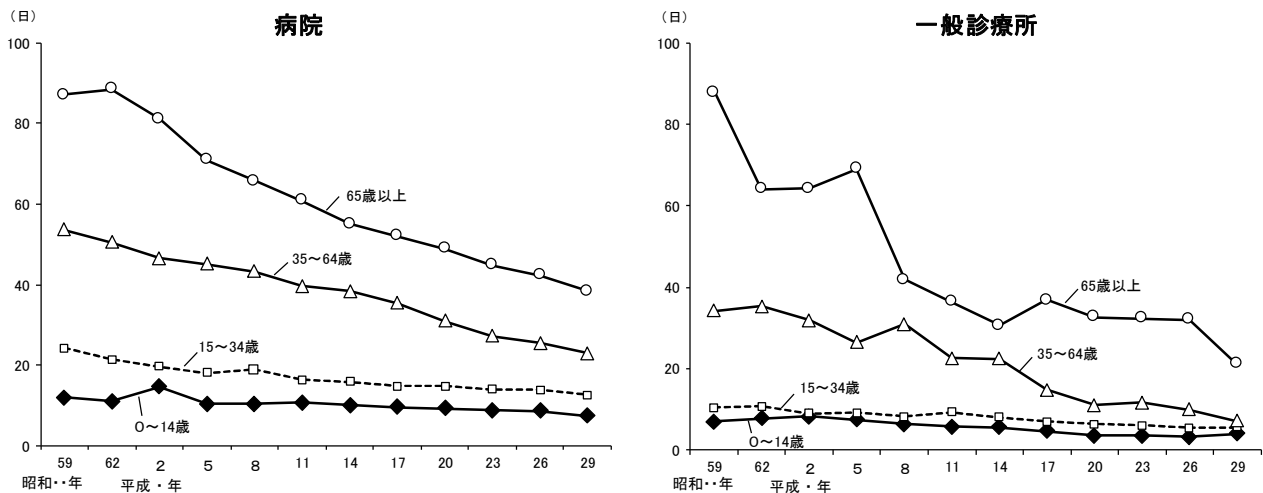
年齢階級別にみると、年齢階級が上がるに従い退院患者の平均在院日数は長くなっている（図8、統計表6）。

図7 施設の種別による退院患者の平均在院日数の年次推移



注：1）各年9月1日～30日に退院した者を対象とした。  
2）平成23年は、宮城県の上巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。

図8 年齢階級別による退院患者の平均在院日数の年次推移



注：1）各年9月1日～30日に退院した者を対象とした。  
2）平成23年は、宮城県の上巻医療圏、気仙沼医療圏及び福島県を除いた数値である。  
3）数値は、統計表6参照。

(2) 傷病分類別

退院患者の平均在院日数を傷病分類別にみると、長い順に「V 精神及び行動の障害」277.1日、「VI 神経系の疾患」81.2日、「IX 循環器系の疾患」38.1日となっている（表6、統計表7）。

表6 傷病分類別にみた年齢階級別退院患者の平均在院日数

（単位：日）

平成29年9月

傷病分類	総数	0～14歳	15～34歳	35～64歳	65歳以上	75歳以上 (再掲)
総数	29.3	7.4	11.1	21.9	37.6	43.6
I 感染症及び寄生虫症	24.6	4.4	10.2	18.2	36.0	40.3
結核 (再掲)	54.1	2.0	36.5	45.4	58.5	61.6
ウイルス性肝炎 (再掲)	21.2	5.2	10.7	9.7	38.2	56.1
II 新生物<腫瘍>	16.1	14.3	10.2	12.0	18.2	21.5
悪性新生物<腫瘍> (再掲)	17.1	21.6	15.9	13.0	18.6	21.8
胃の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	19.2	8.1	12.5	13.0	20.8	24.0
結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	15.7	8.8	12.7	11.7	17.1	20.5
肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	16.9	15.7	36.5	13.0	17.7	19.8
気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	16.3	12.5	9.7	13.3	17.1	19.3
乳房の悪性新生物<腫瘍> (再掲)	11.5	5.5	7.1	8.4	15.7	20.1
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	20.6	9.8	10.1	15.9	25.0	27.4
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	26.6	4.7	10.7	16.3	34.0	39.3
糖尿病 (再掲)	33.3	10.9	13.2	16.3	45.4	62.1
脂質異常症 (再掲)	19.2	2.0	10.5	8.9	25.8	27.8
V 精神及び行動の障害	277.1	44.4	56.7	186.3	495.4	520.9
血管性及び詳細不明の認知症 (再掲)	349.2	-	-	284.1	349.8	340.0
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (再掲)	531.8	167.2	106.5	301.6	1 210.6	1 692.2
気分[感情]障害（躁うつ病を含む） (再掲)	113.9	75.7	47.1	74.9	167.0	196.0
VI 神経系の疾患	81.2	13.1	28.1	44.6	116.5	142.0
アルツハイマー病 (再掲)	252.1	-	-	143.0	254.9	257.1
VII 眼及び付属器の疾患	3.4	3.5	5.9	4.6	3.1	2.9
VIII 耳及び乳様突起の疾患	7.7	3.4	6.3	8.0	8.5	10.5
IX 循環器系の疾患	38.1	9.4	12.4	20.3	43.3	52.9
高血圧性疾患 (再掲)	33.7	7.7	13.6	15.3	39.5	47.8
心疾患（高血圧性のものを除く） (再掲)	19.3	11.8	10.0	9.0	22.2	28.8
脳血管疾患 (再掲)	78.2	12.3	25.6	45.6	86.7	98.9
X 呼吸器系の疾患	25.3	4.8	7.5	17.9	36.6	39.4
肺炎 (再掲)	27.3	5.1	8.2	24.0	33.4	35.3
慢性閉塞性肺疾患 (再掲)	61.5	13.0	7.9	26.7	64.3	74.0
喘息 (再掲)	8.6	4.5	6.2	8.5	21.1	23.9
X I 消化器系の疾患	10.8	4.5	6.3	7.6	13.3	16.0
う蝕 (再掲)	2.3	0.9	1.4	3.2	3.8	5.2
歯肉炎及び歯周疾患 (再掲)	2.3	1.7	1.8	2.6	2.7	2.6
肝疾患 (再掲)	22.9	8.8	10.3	16.5	27.7	31.9
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	24.7	5.8	24.2	15.9	31.1	34.0
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	29.4	10.4	11.5	20.4	35.3	41.6
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	20.8	8.2	4.7	10.2	28.5	33.1
慢性腎臓病 (再掲)	47.9	28.4	14.9	25.6	54.4	60.8
X V 妊娠、分娩及び産じょく	7.6	6.0	7.4	8.0	-	-
X VI 周産期に発生した病態	11.4	11.4	2.0	-	-	-
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	16.9	11.7	14.8	35.5	52.0	66.8
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	21.8	3.4	9.0	14.1	31.5	36.2
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	31.1	3.8	11.0	20.1	41.3	45.4
骨折 (再掲)	37.2	6.1	11.3	20.7	45.6	49.5
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	14.6	5.7	6.9	9.3	26.9	31.3

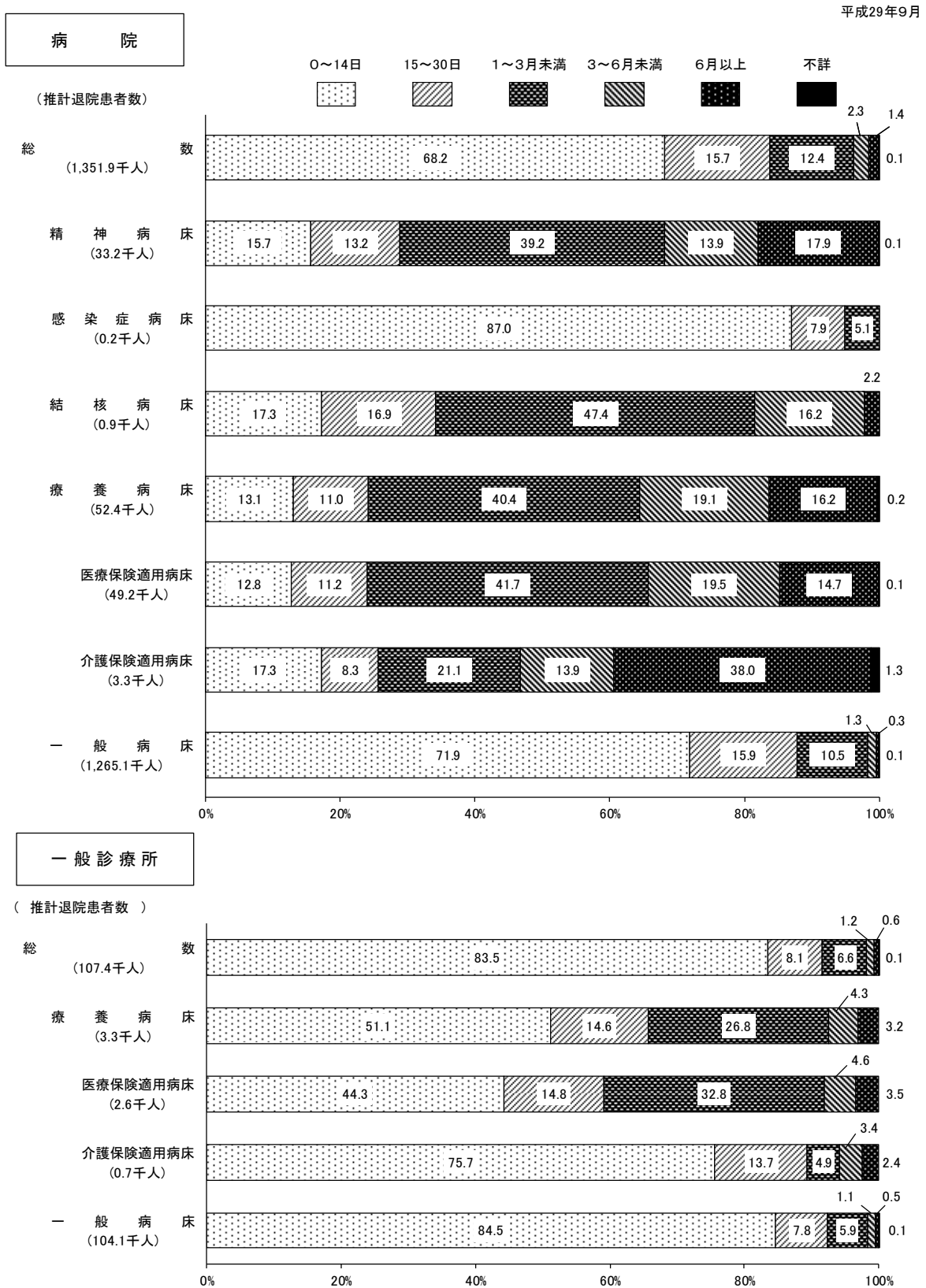
注：1）平成29年9月1日～30日に退院した者を対象とした。

2）総数には、年齢不詳を含む。

### (3) 推計退院患者数の構成割合

退院患者の在院期間別に推計退院患者数の構成割合をみると、病院は「0～14日」が68.2%、「15～30日」15.7%、一般診療所は「0～14日」が83.5%、「15～30日」が8.1%となっている（図9）。

図9 病床の種類別にみた在院期間別の推計退院患者数の構成割合



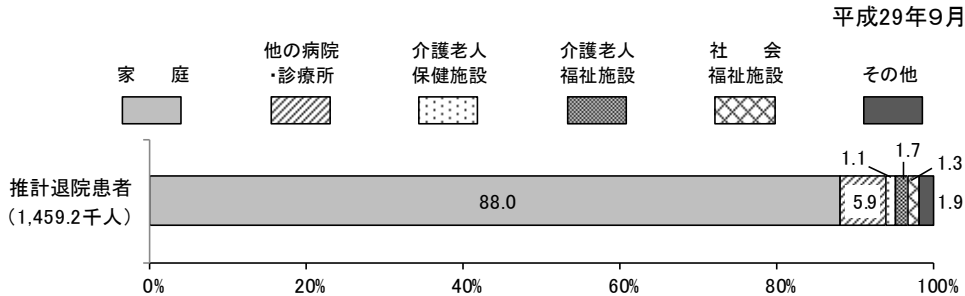
注：1）平成29年9月1日～30日に退院した者を対象とした。  
2）病床の種類は退院時のものである。

#### 4 入院前の場所・退院後の行き先

入院前の場所についてみると、推計退院患者 1,459.2 千人のうち「家庭」が 88.0%となっている（図 10、統計表 8）。

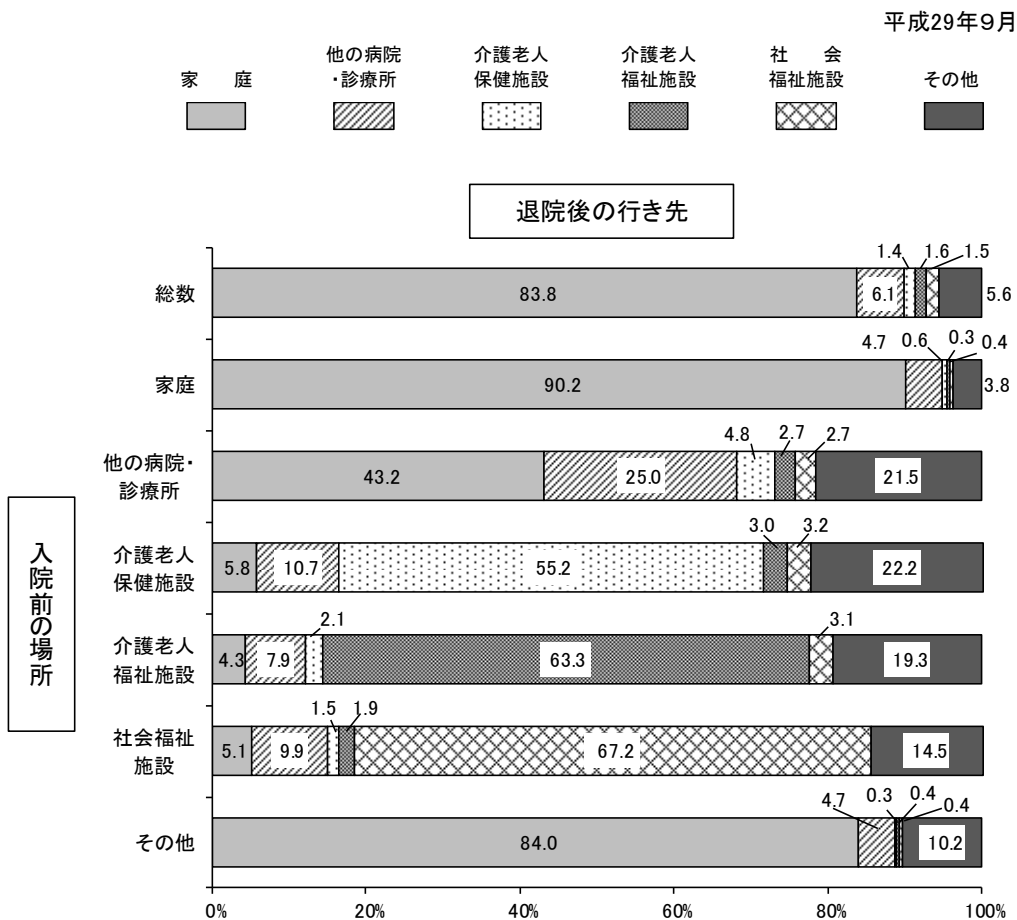
また、退院後の行き先についてみると、「家庭」が 83.8%となっている（図 11、統計表 8）。

図 10 入院前の場所別の推計退院患者数の構成割合



- 注：1) 平成 29 年 9 月 1 日～30 日に退院した者を対象とした。  
 2) 「家庭」には、病院・一般診療所への通院、在宅医療も含む。  
 3) 入院前の場所における「その他」とは、入院前の場所が特定できない者で、当該医療機関内で出生した新生児・不明等も含む。

図 11 入院前の場所・退院後の行き先別にみた推計退院患者数の構成割合



- 注：1) 平成 29 年 9 月 1 日～30 日に退院した者を対象とした。  
 2) 「家庭」には、病院・一般診療所への通院、在宅医療も含む。  
 3) 入院前の場所における「その他」とは、入院前の場所が特定できない者で、当該医療機関内で出生した新生児・不明等も含む。  
 4) 退院後の行き先における「その他」とは、退院後の行き先が特定できない者で、死亡・不明等も含む。

## 5 主な傷病の総患者数

主な傷病についての全国の総患者数は、「悪性新生物<腫瘍>」1,782千人、「心疾患（高血圧性のものを除く）」1,732千人、「脳血管疾患」1,115千人となっている（表7、統計表9）。

表7 主な傷病の総患者数

(単位：千人) 平成29年10月

主な傷病	総数	男	女
結核	18	8	10
ウイルス性肝炎	156	75	81
悪性新生物<腫瘍>	1 782	970	812
胃の悪性新生物<腫瘍>	196	135	61
結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	288	164	124
肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	56	38	19
気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	169	102	67
乳房の悪性新生物<腫瘍>	232	3	229
糖尿病	3 289	1 848	1 442
脂質異常症	2 205	639	1 565
血管性及び詳細不明の認知症	142	49	93
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	792	379	414
気分[感情]障害（躁うつ病を含む）	1 276	495	781
アルツハイマー病	562	150	412
高血圧性疾患	9 937	4 313	5 643
心疾患（高血圧性のものを除く）	1 732	963	775
脳血管疾患	1 115	556	558
慢性閉塞性肺疾患	220	154	66
喘息	1 117	509	607
う蝕	1 907	832	1 075
歯肉炎及び歯周疾患	3 983	1 621	2 363
肝疾患	249	127	123
慢性腎臓病	393	242	151
骨折	677	249	428

注：総患者数は、表章単位ごとの平均診療間隔を用いて算出するため、男と女の合計が総数に合わない場合がある。

### ※ 総患者数（傷病別推計）とは

総患者数とは、調査日現在において、継続的に医療を受けている者（調査日には医療施設で受療していない者を含む。）の数を次の算式により推計したものである。

$$\text{総患者数} = \text{入院患者数} + \text{初診外来患者数} + (\text{再来外来患者数} \times \text{平均診療間隔} \times \text{調整係数}(6/7))$$

